



奈良の民話を語りつぐ会 講演と紙芝居

世界につながる奈良の民話 アジア編

—「猿の肝・くらげ骨なし」をめぐって—

ナーミンでは『子どもと家庭のための奈良の民話』（村上郁再話、青木智史・竹原威滋編・全3巻）を刊行しました。また、そのテキストを採用して、このほど『紙芝居 さるのきも』（マスダ ケイコ制作）が公開されました。竜宮城の乙姫さんが猿の肝を食べようとする話はナーミン・テラーのあいだでも人気のある話で、「猿の生肝」という話型で全国的に語られています。奈良の話では、ヒラメが告げ口しますが、全国的にはクラゲが告げ口をして、その罰で骨抜きにされたと語る事例が多いです。つまり、クラゲに骨のない由来などで結ぶ動物昔話になっています。このたびの講演では、日本、朝鮮、中国、チベット、タイなどの民話を取り上げ、『今昔物語集』や古代インドの説話集『パンチャータントラ』などの文献と比較考察し、アジアに広がる奈良の民話の魅力に迫りたいと思います。

絵本の読み聞かせや語りの実践をされている方、孫や子に昔話を語ってみたいという方々、しばしメルヘンの世界に浸ってみたい方々、是非、いらしてください！

それではお話のはじまり、はじまり。「むかーし、あるところに…」

◇ 日時：4月24日（木） 15:00～16:30

◇ 会場：奈良市ボランティアインフォメーション

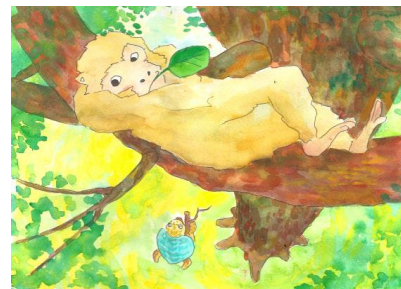
センター（JR奈良駅から南へ徒歩約5分）

はぐくみセンター1階 会議室

◇ 講師：奈良教育大学名誉教授 たけはら たけしげ 竹原 威滋



研究分野はドイツ伝承文学で、グリム童話や日欧の民間説話の比較研究に従事。奈良県下で民話調査も実施。また、「奈良の民話を語りつぐ会」の代表として、地域での語りの文化の再生にも取り組んでいる。「NHK おはなしステージ in なら燈花会」の監修・解説を務める。最近著に『グリムと民間伝承 東西民話研究の地平<退官記念論文集>』（麻生出版）がある。



【対象】一般市民、お話・メルヘンに関心のある方々

【申込】不要 ※ 先着50名 【参加費】無料

【問い合わせ先】奈良の民話を語りつぐ会 事務局 小西雅子（電話 090・9992・6815）